

A2ミルク認証制度制定へ

日本A2ミルク協会は、今年2月にA2ミルクの認証制度を立ち上げるべく、A2牛乳の第一号認証商品化及び認証の承認要請を進めている。藤井雄一郎代表(北海道・富良野市の藤井牧場代表)写真に、A2ミルクの認証制度について話を聞いた。

(聞き手 門馬恵美)



— A2ミルクについて

A2ミルクとは、乳中のたんぱく質であるβカゼインが全てA2タイプの牛乳を指す。

A2ミルク市場は海外では先行して発売されており、成長基調にある。世界の市場規模は2028年には292億ドル(約4兆3500億円)と22年比で2・6倍に急拡大する見通し。

— A2ミルクに期待される役割

中央酪農会議による酪農家の実態調査によると、酪農家の85%が赤字、6割が離農を検討している現状がある。一方で、飲用牛乳は物価の優等生として長年、量販店での目玉商品として位置づけられており、価格への反



2021年にオーストリアでA2ミルクの偽装事件が発生し、牛の遺伝子検査をするともに、市販A2牛乳の真贋判定を公的な検査機関が管理するべきと痛感した。こ

応も顕著でコスト反映は難しいとされてきた。飲用牛乳は、原料やエネルギーなど様々なコスト高を受けて昨年までに数回の価格改定がなされたが、消費者の生活防衛意識は高く、牛乳の消費は振るっていい。

2030年には全国で購入できる体制に

A2ミルクであれば、消費者に新たな価値を提案し、牛乳・乳製品の市場拡大を図る可能性があると考えた。

一方で、A2ミルクを普及するためにはクリアしなければならない課題があった。

一つは日本人を対象とした胃腸症状の改善に関する研究実績の蓄積、もう一つは、信頼できる生産体制の確立となる。

2020年に当会を発

のため、協会としてA2ミルク認証制度を設立し、24年1月から試験運用を開始。正式運用は4月から開始予定。

— A2ミルク認証について

海外で発表された論文で、A2ミルクを提供する上で品質を保障するための入念な検査が欠かせないことを知ったが、A2ミルクに乗り出した当時は日本国内に検査機関が存在しておらず、海外

に検査を依頼するしか方法がなかった。牛乳の安全性を担保するためには検査は継続して行わなければならない。その都度生乳を海外へ輸出する必要があった。牛乳は要冷蔵の状態を維持しなければならず、高額な輸送コストが必要になる。空港の検査で時間がかかり生乳が悪くなるなどの自身の体験も踏まえ、A2ミルクを普及するには、国内に検査機関のシステムを構築することが大前提だと確信し、制度化に動いた。

③生乳(牧場)を証明

と牛乳(商品)の定期的な(月1回)βカゼインの検査に合格したものに認証マークの使用許可がおりる(契約を締結)。認証された商品には認証マークを付与。

— 協会の今後について

A2ミルク認証は消費者の信頼を担保するものでなければならぬ。そのためには常に消費者ファーストで考え、一般の牛乳よりワンランク上の成分、乳質を目指す。

登録制度はすでに運用を開始している。βカゼインの検査について1月からの運用を開始。認証監査は昨年12月に監査の要求項目を確定、2月から監査の試験運用を開始し、2月中旬に第一号認証を認定する運び。

— 協会の今後について

A2ミルク認証は消費者の信頼を担保するものでなければならぬ。そのためには常に消費者ファーストで考え、一般の牛乳よりワンランク上の成分、乳質を目指す。

安全性、信頼性を維持し、エビデンス

協会ビジョンとしては、2030年までにどのスーパーでもA2ミルクが購入できるようにすること(市場の5〜10%のシェア)。2040年までに日本の牛乳がすべてA2ミルクになることを目指す。2024年を「A2ミルク元年」として、市場構築に努めている。

登録制度はすでに運用を開始している。βカゼインの検査について1月からの運用を開始。認証監査は昨年12月に監査の要求項目を確定、2月から監査の試験運用を開始し、2月中旬に第一号認証を認定する運び。

— 協会の今後について

A2ミルクの商品を対象に実施。生産から輸送、加工時まで一貫した品質管理基準を担保することを目指し、トレーサビリティの観点から学術的な監修のもと構築。牧場自体の監査、乳牛の遺伝子検査、生乳、牛乳の検査、輸送や加工時の混入がないシステムであることの監査を行う。これらの定期的な監査を実施し、一定の基準を満たした場合に限り、商品に対し認証マークを付与する。

— 協会の今後について

2月から試験運用を開始、これらの基準を満たした日本A2協会牛乳の商品化も3月上旬に予定。

A2ミルク認証監査委員会は「新たな認証基準であり、消費者への信頼性につながる情報提供として貢献すべきもの」とコメントしている。

(日本A2ミルク協会 認証監査委員会を設立)

日本A2ミルク協会は、今年2月にA2ミルクの認証制度を立ち上げるべく、A2牛乳の第一号認証商品化及び認証の承認要請を進めている。藤井雄一郎代表(北海道・富良野市の藤井牧場代表)写真に、A2ミルクの認証制度について話を聞いた。